

発展と教育のためのキリスト教機関(CODE)

ニュースレター2018年9月号

親愛なる里親の皆さんへ

わたしたちの救い主イエス・キリストの御名によりご挨拶申し上げます。

この夏は日本における堪え難い暑さのため亡くなられた方もおられたと知り大変ショックを受けています。これまで日本の諸都市で最高気温が40度に達することは聞いたことがなかったので本当に驚いています。これは気候変動によるものと思いますが、この極端な気候の中で、里親の皆さんが守られたことを神に感謝しています。また数日前、NHKの天気予報士が日本の幾つかの都市でまとまった雨量が期待出来ると言っていました。これはとても良い知らせです。

この2ヶ月間は、わたしたち家族にとって大変慌ただしく、また辛い悲しみの時でもありました。バンガロールでソフトウェアエンジニア(SE)の仕事をしていた息子が中国から帰国した後、重い病で倒れました。やがてそれが腸チフス及び黄疸が原因だとわかりました。病気は悪化し敗血症にまでなりました。バンガロールの病院に入院を余儀なくされ、適切な治療のもと一週間程で回復がみられ、10日後には退院をすることが出来ました。この間、里親の皆さん及び日本の皆さんが、危機的状況の中にあつた息子のために祈りを捧げてくださったことを知っています。そしてそれらの祈りがあつて息子が新しい命をいただいていると信じています。お一人おひとりのお祈りに心から感謝申し上げます。

息子サムビート(Sambeet)は、わたしたちが結婚して7年経って、自分たちの子どもはもう望めないと思っていた時に与えられた子どもです。息子が生まれた時に、この子が成長した暁には、キリスト教の宣教のために働く者となることを願って、主にこの子をお捧げしました。その息子がイエスさまを受け入れバプテスマを受けた日はわたしたち夫婦にとって最大の喜びの日となりました(インドのバプテスト教会では、大人にバプテスマを授けています)。神さまが息子を将来主に仕えることのできる正しい方向へと導いてくださっていると感じて感謝していました。しかし彼がソフトウェアエンジニアとしてバンガロールの会社で仕事を始めると状況は変わり、もう戻りたくはないと言い出しました。何回か、わたしたちが主にあつて息子に期待していることについて語ってきましたが、全く関心がない様子でした。彼は結婚して引き続きバンガロールに住んでいました。しかし、驚いたことに、今回の病気からの回復と共に彼自らプリに戻り、わたしたちの働きの手助けをしたいと申し出てくれたのです。このことを聞き、わたしたちの心は喜びで満たされ、家族で一緒にひざまずき神に感謝の祈りを捧げました。こういう訳でサムビートは、今わたしたちと共にいて、わたしたちの働きを助けてくれています。様々なことをしてくれていますが、ビデオなどの視聴覚教材を用いた彼のスマートクラス(賢くなるクラス)は、子どもたちには一番人気のあるクラスとなっています。神がサムビートを、わたしたちの教育機関のために、また主の栄光のために、より有効に用いてくださるようお祈りください。

8月15日に、わたしたちの学校でもインドの独立記念日をお祝いしました。子どもたちと保護者の全員がこの会に出席しました。プリ子どもの家時代からわたしたちと関わりのあるプリで長年眼科医をされておられるバレン・チャンドラ・パトナイク医師を主賓としてお招きし、国旗掲揚をしていただき華を添えていただきました。園庭で国旗掲揚の際は全員がそこに集いましたが、その後、雨が降り出したのでホールに移動して集会が続けられました。初めの祈りが捧げられた後、子どもたちが国を愛するという内容の歌を歌い、主賓による独立記念日のメッセージが語られました。会を閉じるにあたり、生徒たちにス

ウィーツが配られました。

今、恒例のバーケイション・バイブルスクール（VBS）開催のための準備調整を進めています。今年は、10月14日～17日に開催します。1988年以来、このプログラムは、日本バプテスト女性連合の献金によって運営されてきました。毎年、このVBSには他地区の教会学校の子どもたちと若者を招待しています。これまでは毎年のように350名ほどの子どもたちと教会学校の教師たちがこれに参加してきました。神に感謝することは、過去において、このVBSを通して、多くの若者がイエスさまを救い主と信じ、献身の決意が与えられてきたことです。感謝なことに、彼らの多くが牧師、伝道者としてオデシャ州の各地で仕えています。昨年同様今年も予算の縮小のため、175名の子どもたちのみをプリの近隣教会から招待してこのプログラムを行うことにしています。このVBSではバイブルスタディー、振り付けつき讃美、証、個人的信仰決心、レクレーション、カウンセリング、そして聖書クイズ、ソロ讃美、スポーツなどのコンテストもあります。プリバプテスト教会の教会学校教師と他の教会の教師がVBSの各クラスを担当していただきます。皆さんの祈りの中に、このVBSの準備のことを覚えていただければ幸いです。又皆さんの女性会や教会の皆さんにもこの会の成功を祈っていただければ幸いです。

継続している古着配布プログラムのために、この数ヶ月で高良相子さんから3箱、百合丘キリスト教会から6箱、江副史子さんから1箱、長崎バプテスト教会から2箱、湯川瓊子さんから1箱の古着が届きました。お捧げくださった皆さんのご協力を心から感謝申し上げます。

今年の12月と1月の古着配布プログラムのための準備を既に始めています。わたしたちの地域におられる多くの貧しい方々は暖かい服を買うことが出来ません。わたしたちはその方々のためにこの古着配布プログラムを毎年行っています。わたしたちのスタッフ、またボランティアは、夜、スラム、バスターミナルや駅に出かけ、貧しい方々に古着や暖かい服を配る働きをしています。12月の古着配布プログラム開始に間に合うように、すべての里親の皆さん、友人の皆さん、女性会の方々、バプテスト教会の皆さん、どうぞ古着を今からでも送ってください。よろしくお願い申し上げます。

また、わたしたちの学校の経費節減のために、男児、女児用の以下のような献品をお願いいたします。セーター、ジャンパー、靴下、マフラーなどの暖かいもの、小さめのハンドタオル、普通サイズのタオル、男児、女児用の服、ノート、塗り絵の本や用紙、クレヨン、色鉛筆、絵の具とはけ、用紙、鉛筆、ペン、粘土、折り紙、ハンカチ、ペーパータオル、おもちゃ、コールドクリーム、石けんなど。

ここ数ヶ月間に卒業生が何人かわたしたちを訪ねてくれました。卒業後何年も経ってからの再会は、わたしたちにとって喜びとなりました。イサウ・ムルムは郵政省で、ラックスマン・ラオは会計検査官として働き、スシーラ・ゴマンゴは大学四年生となりました。

里親の皆さんはインドにおけるわたしたちのミニストリーのライフラインです。皆さんの祈りと献金があって、助けを必要とする地域の子どもたちが更に良い将来を形作ることが出来るように、ごく幼少の頃から教育及び他の手助けを無償で提供することが出来ています。そして皆さんのおかげで子どもたちをキリスト教精神の環境で教えることが出来ています。

これまで私が日本を訪れた時、また里親の皆さんがインドを訪ねてくださった時に、里親としてどんなお気持ちですか、と質問をしました。人によってそれぞれではありますが、共通していることは、里親となってからご自身も家族も祝されているという答えでした。

また、ある方は子どもたちと、その活動記録の写真をみる中で、自分もまたインドにおける宣教活動の一部を祈りと献金を通して担っているという実感が湧き上がり、とても嬉しい気持ちになった、と知らせてくれました。

何百年もの間、偉大な思想家たちも同じことを言っています。「幸福は他者を助ける中にある」。アッシジの聖フランチェスコは「与えることを通して受けとるのです」と言いました。数年前、米国のサンフランシスコ近郊にあるセコイア杉の森、ミューア・ウッズに関する記事が目にとまりました。記事のライターはその森の秘密について触れていました。彼によるとセコイア杉は地球上で最も大きな木だそうです。何百年も何千年も生きている木もあります。興味深いことに、それらの根はあまり深くはないのですが、何百年もの間、幾多の嵐や吹雪、致命的な大地震などにも耐え抜いています。では、深く根を張っていないにも関わらず、どうして立ち続けることが可能なのでしょうか。

大変興味深い地下の秘密がその記事に記されていました。それらの根っこは地中で外側に外側にと広がり、他のセコイア杉の根へと向かっているそうです。そしてひとつの根が他の木の根と地中で出会うと、お互いに絡まり合い、永劫の結合を作り出します。このようにしてこの森林全体のセコイア杉は直接的間接的にお互いを支え合っています。分かち合うということがその力となり、お互いのケアのためにお互いの手を差し伸べ合っているのです。生まれたばかりの小さなセコイア杉のほんの小さな根でさえ、その森の長老たちにより守られています。ミューア・ウッズの自然の姿は、わたしたち人間に、真の力とは他者に関心を持ち、他者を支えようとする中から発揮される、という大切なことを教えてくれています。

わたしたちは神の世界の管理者です。与えることを通してわたしたちは受ける。このシンプルかつ普遍的原理を理解することは知恵です。使徒言行録 20 章 35 節に「受けるよりは与える方が幸いである」とあります。ウィンストン・チャーチルは「我々は得ることで生計を立て、与えることで生きがいをつくる」と言いました。

わたしたちの里親である皆さんは裕福だからとか、あり余っているから捧げてくださるのではありません。皆さんが捧げてくださるのは、与えることから来る本当の喜びを知っておられるからです。皆さんの周りに、皆さんのように、インドの助けを必要としている子どもたちを助ける中で、与えられる真の喜びを知りたいと思われる友人がおられましたら、里親になるように、そして松本素代美さんに連絡をとるようにと、励ましていただきたいと思います。住所は 852-8132 長崎市扇町 28-18 メール taiyo-hoshi@tune.ocn.ne.jp 電話は 090-7925-3703 連絡くだされば松本素代美さんは喜んで皆さんに必要な情報を教えてくださり、インドの助けを必要としている子どもたちに仕える方々の輪に加わることを歓迎してさせていただきます。

このニュースレターを閉じるにあたり、わたしたちの子どもたち並びにわたしたちに愛を注いでくださっていることに改めて感謝申し上げます。お一人おひとりの経済的支援と継続的お祈りのおかげで、わたしたちはここインドで助けを必要としている貧しい子どもたちに仕えることが出来ています。ありがとうございます。

皆さんとご家族の上にこれからも神さまからの祝福が豊かにありますように。

S.K.モハンティ

住所 Christian Organisation for Development and Education.
Naomi Building, Station Road, Puri 752002, Odisha, INDIA

メール childrenshomepuri0@gmail.com

電話 00-91-6752-224978 携帯 +91-9437114996